

第 22 話 ワシントン会議

世界の平和を保障する運動の一つとして軍備縮少会議がアメリカ合衆国の提議で開かれる。主力艦の比率協定と太平洋軍備制限協定、日英同盟の廃棄。

世界平和の促進運動

第一次世界大戦によって、戦争の惨禍を飽くまでも見せつけられた列国は、いづれもその疲弊をいやすために、熱心に戦後の経営につとめながら、同時に、一方においては、再び同じ惨禍を繰り返さないようにしようとの考えから、しきりに世界平和の促進運動を急いだ。さきにパリの講和会議で、国際聯盟の創設をみたのも、勿論そのあらわれの一つですが、これには、いよいよとなって肝心な提唱者ウィルソンの国であるアメリカ合衆国が加入しなかったので、たとえば龍を描いて点睛を忘れたように、初めからすこぶる精細を欠いた弱体の存在となり、前途に多くを期待することが出来ない頼りなさを一般に抱かせた。

ただヨーロッパ方面の外交上、商業上の争議だけは、戦時中にもかかわらず無法に残酷をほしいままにしたドイツの惨敗に乗じて再びこれを起さないようにしようとの建前から、むしろ過酷に失するほどの負担を講和条件としてドイツに課して、ともかくも一応のかたをつけた。しかし、太平洋および東洋方面には、なおまだ紛争の種子となるべき問題が少なくなかった。

勢い各国は表に平和の維持を申し合わせながら、裏ではしきりに軍備の充実をはかっていた。従って、国費はますます増大する。国民はその負担の過重に苦しんだ。と同時に一方ではまた、これではいつになっても世界の平和は保たれる筈が無さそうでした。殊にわが国と、イギリスとアメリカ合衆国とは互いに財力の許す限り海軍の拡張をはかり、製艦競争を続けてやまないような傾向があった。

軍備縮小問題

たまたま大正 10 年の夏、アメリカ合衆国では、軍備縮小決議案が上下両院を通過したので、大統領ハーデングはすなわちその趣意に基づき、関係諸国をワシントンに招いて軍備制限およびこれに関係の深い太平洋並に極東に関する諸問題を解決することにした。招かれたのは我国およびイギリス、フランス、イタリアの外に、中国、ベルギー、オランダ、ポルトガルの諸国でして、我が国からは貴族院議長徳川家達、海軍大臣加藤友三郎、駐米大使幣原喜重郎、外務次官埴原正直が全権委員としてこれに参列した。

主力艦の保有比率、5:5:3

会議は大正 10 年（西暦 1921 年）11 月 11 日（欧州大戦の休戦記念日）をもって開かれ、翌 11 年 2 月 6 日をもって閉じられたが、その間に決定した事項はいろいろあった。まづ第一に海軍軍備の制限では、各国の有し得る主力艦をイギリスとアメリカ合衆国とは同比率として、それに対して日本は 6 割、フランス、イタリアの両国は 3 割 4 分とした。いわゆる 5 : 5 : 3 : 1.7 の比率がこれで、そしてそ

第22話 ワシントン合着

の総屯数を英、米の両国は各 525,000 屯、日本は 315,000 屯、仏、尹の両国は各 175,000 屯を超えないこととした。且つ各国共に今後 10 年間は主力艦の建造を行わない事とした。

三笠艦の保存

その結果、わが国は当時保有している主力艦のうち、上の総屯数を超過する分として 10 隻、および建造中の 8 隻を廃棄しなければならなかったが、その中には、かの日本海海戦の時に、東郷司令長官の座乗した旗艦三笠も含まれていた。そこで、これは後のことだが、わが国では、この大切な記念艦を永久に保存しようとする運動が起こって、財団法人三笠保存会が組織され、英、米、仏、伊の 4 国の諒解を得て、これを横須賀に保存することにした（注：2020 年現存する）。

太平洋の防備制限

さて、話は前にかえるが、上の主力艦の制限にともなって太平洋の防備もまた制限された。これは、太平洋方面に領土および属地を有する日、英、米の 3 国の協定であるが、これによって

- ・ 英国は東経 110 度以東の太平洋の領土および属地で、カナダ海岸に近接する島嶼、オーストラリアおよびニュージーランドを除くすべての土地に、
- ・ アメリカ合衆国は米本国、アラスカおよびパナマ運河地帯の海岸に近接する島嶼ならびにハワイ諸島を除くすべての土地に、
- ・ 日本は千島諸島、小笠原諸島、奄美大島、琉球諸島、台湾および澎湖諸島に、

要塞および海軍根拠地をこの協定の調印当時現状のままにして、それ以上には施設しないことを約したのです。

又、航空母艦の保有量、潜水艦および毒ガスの使用の制限なども 5 カ国条約で定められた。

極東平和の問題、日英同盟の廃棄

次に、極東平和の諸問題については、列国の利害の焦点となっている中国の独立および領土保全に関する 9 カ国条約、中国の関税に関する 9 カ国関税条約などが締結され、更に太平洋の問題については、日本、イギリス、アメリカ合衆国、フランスの 4 国の間に新たに協約が結ばれ、各自の所有する太平洋方面の島嶼に関して、互いにその権利を尊重することを約し、もしこれらの島嶼について紛議の生じた時には、共同してこれを解決することにした。そしてこの協約の効力が発生すると共に、かねての日英同盟は廃棄されることとなった。

また、わが委任統治の南洋諸島に関して、米国はヤップ島をわが国が監理することに異議を唱えたが、協議の結果、監理は当然の事としてわが国に属し、米国は電信の自由使用权を得る事となった。

また、この会議中に、中国に関して、列国は租借地を適当な時機に中国に還付する事を声明した。

山東問題の解決

パリの講和会議以来、久しく懸案となっていた山東問題も、このワシントン会議で解決された一つで

す。即ちわが全権委員は中国の全権委員と直接に交渉して、協定を結び、かねてドイツから継承した膠州湾租借地を中国に還して、青島、齋南間の鉄道およびその支線は代償を得て中国に譲り、山東地方の鉞山は日中合弁の事業とすることを約したのです。但し、細目については、その後、日中両国委員会を北京に開いて、仔細に商議の上、大正 11 年の暮れから翌 12 年の 1 月半ばにかけて協定の全部を実行した。実に大正 3 年 11 月にドイツ軍を下してこれを占領してから、8 年余にわたる懸案がここに円満に解決されたのです。

ワシントン会議の裏面

ところで、このワシントン会議は、世界平和の為に提唱されたものでした。しかし、果たしてそれがアメリカ合衆国の誠心誠意から出たものであったかどうか？ 或いは大戦後の我が国が、にわかに 5 大強国から 3 大強国にまで躍進して、なおその上にも勢いがさかんになりそうでしたので、早いうちにこれを圧迫しようとしてイギリスと謀を通じて我れを欺いたのではなかったか？ それとも、或いは日英同盟を廃棄しようとしたイギリスが、これを廃棄した後の東洋方面における自国の利益を擁護するために、以前からこの同盟を喜んでいないアメリカ合衆国を誘って、相共にわが国の海軍力を充実させないようにしたのではなかろうか？ あれかこれかと疑う余地は十分にあったとも言われています。

さきにパリの講和会議で、わが国が提出した人種平等案、即ち世界各国はいかなる人種を問わず、すべて平等の取り扱いと平等の権利を受けるべきものという提案を、委員の過半数が賛成したにもかかわらず、全員一致でないとの理由で委員長ウィルソンが採用しなかったのを見ても分かるように、かれらは白人以外のものを自分らと全く平等なものとは考えたくないのです。

又、欧州大戦の際には、連合国の危険を目の前にしていたので、最も有力な頼みがいのある身方として我が国の起つのを喜んだイギリスも、すでに勝ってしまっただけには、わが勢いがますます盛んなのを見て、却って不安を感じたという事もあったでしょう。いわゆる狡兎死して走狗煮られる（訳注：兎が死ねば、獵犬は不要となるから煮て食われるという諺）という奴で、たしかに、いささかはその嫌があったのです。

にも拘わらず、わが国は欣然としてアメリカ合衆国の招きに応じ、世界の平和のためにどこまでも協調の精神を失わずに、幾多の犠牲も甘んじて払ったのです。

（ 第 22 話 ワシントン会議 終わり。 次は前頁に戻り、第 23 話 大正末期の国内事情 ）